琉球大学学術リポジトリ

小学校高学年における批判的思考を培う授業デザイン

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2018-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土屋, 勢子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41615

課題研究中間報告

小学校高学年における批判的思考を培う授業デザイン

土屋勢子

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻・南城市立大里南小学校

1．はじめに

(1) 問題の所在

これからの社会は，グローバル化，少子高齢化の進展や雇用環境の変容など激しく変化していく社会となることが予想される。その時代を生き抜く子どもを育む教育にも常に改革が求められており，「21 世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成」（文部科学省，2012）を目指すための教育改革が教師にとって大きな課題といえる。既知を通してさまざまな情報を的確に理解して判断を行ない，批判的に思考する過程のスキルと誠実さや謙虚さ，責任感等，人として根幹となる態度が，未来を担う子ども達にとって重要である。また，これからは多種多様な個々人の力の発揮と，未知の問題を解決していく幅広い知識と柔軟な思考に基づく生き方が一層求められる時代となる。

批判的思考とは，Ennis（1987）の「何を信じ何を行うかの決定に焦点を当てた，合理的で反省的な思考」が一般的な定義とされており，道田（2011）は「合理的」について「筋道立ててきちんと考えること」，「反省的」を「じっくりと丁寧に考えること」と述べ，問いを手掛かりに検討していく思考の重要性を指摘している。また，道田（2001）は批判的思考を「領域特殊的あるいは不安定で，利用されにくいもの」とし，「それを活かす教育を行なうことが思考能力の般化と日常通用可能性を高めることにつながる」と言及している。小学校の段階から日常的に客観的な視点で物事を捉え，論理的に考えながらよりよく判断する習慣をつけることは，さまざまな分野で，学習で培った力につながる批判的思考能力の転移を可能にさせ，一般的で汎用性のある能力として活用できると考える。

しかし，学校現場において小学校の段階から批判的思考能力を培う重要性について理解されてはいるが，学習場面において具体的に学習内容をどのように教授するのか等，学習者の実態やその発達を視野に入れた教師の働きかけや学習者の批判的思考過程の分析と批判的思考能力の向上に対する効果については論じきれていない。学校教育における学習指導は，授業のねらいに沿った一つの解に導く指導がなされることが少なくない現状において，学習者はこれまでの知識や経験をもとにさまざまな見方や考え方を重視した議論を通して，深く考えることが重要だと考える。

私が関わってきた子ども達の多くは，学習したことをそのまま忠実に実行すればできる問題に対しては問題の解決に向けて積極的に行動しようとする。一方で，学習したさまざまな知識を組み合わせて試行錯誤し，筋道立ててじっくりと丁寧にいろいろな思考を巡らせる中で必要な情報を選び，問題を解決していくような場面に対しては消極的であり，ここに批判的思考を育む必要性を感じている。そこで，本研究では学習場面における批判的思考を，問題を捉え，見かけに惑わされず，今まで身につけてきた知識や得た情報を多面的に分析，吟味し，本質を見抜いて問題を解決する力とした。

(2) 目的

本研究では，論理的に考えて適切に理解し，根拠をもって話し合う中で情報を吟味する活動と教育内容との相関性が高いと考えられる国語科において，批判的思考の構成要素を生かした単元を開発し，教師の働きかけと学習者の批判的思考過程との関連を分析し，批判的思考能力の向上に対する指導法を検証することを目的とする。また，授業場面における学習者の思考スキルを明確にしながら支援の方法についても検討する。その中で，大学生に用いた批判的態度尺度（平山・楠見，2004）を元に小

学生用に編集し直した批判的思考態度尺度を用いて批判的思考態度の構造を明らかにし，批判的思考態度と批判的思考スキルとの関係性を明確にする。

(3) 研究の方法

上記の問題意識から，まず批判的思考プロセスの展開が示された先行研究を元に批判的思考の態度とスキルの構成要素とプロセス（道田，2011；楠見・道田，2015）を改変し（図１）本研究では図１に示した批判的思考の態度とスキルの構成要素とプロセスに依拠する形で，批判的思考態度尺度を再編・測定・分析後，大学生と小学生の差異を明らかにする。加えて，沖縄県全域の教職員が捉える公立小学校の児童を対象とした批判的思考能力に関するアンケート（2018 年 2月23 日分析完了）の結果をふまえて国語科における授業をデザインする。

そこで，授業実践を通して学習者が批判的思考の構成要素とプロセス上のどのような点につまずきやすいのかを明らかにし，そのつまずきを克服するための方略を検討する。その後，批判的思考能力を高める方法と授業実践後の態度とスキルの相関を検証する。

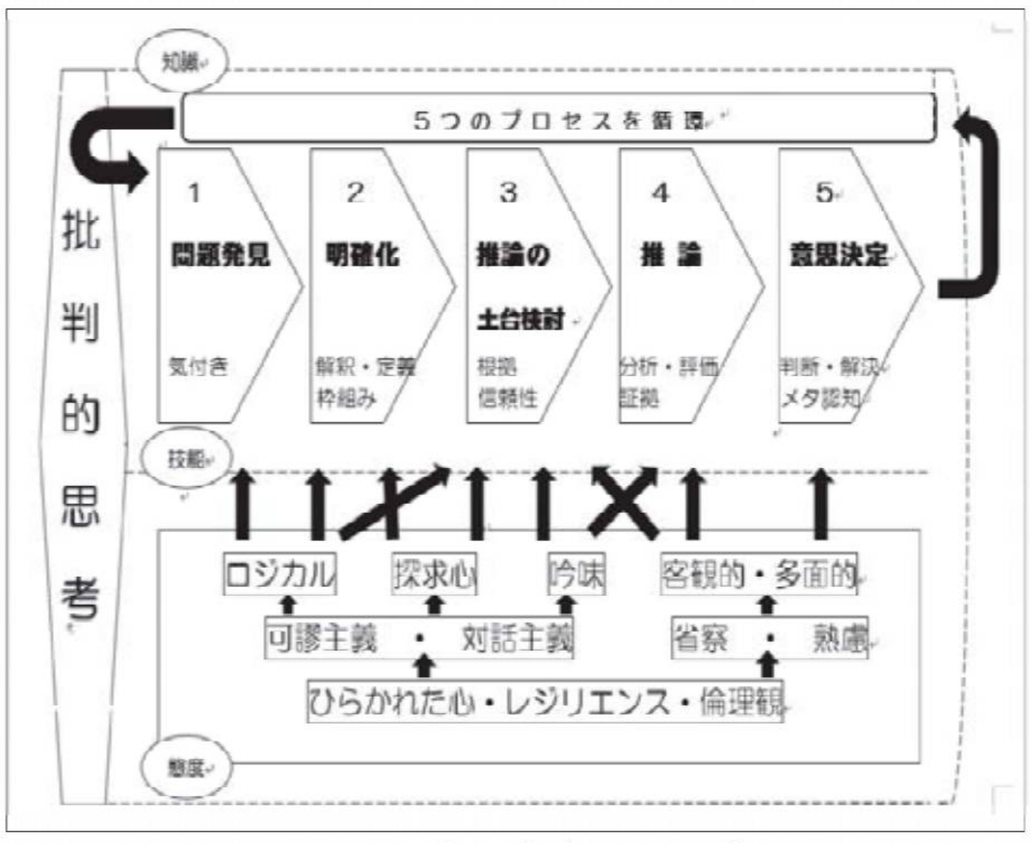

図１　判的思考の構成要素とプロセス
（道田，2011；楠見・道田 2015 を改変）

２．研究内容

(1) 先行研究の概観と問題点

批判的思考を効果的に発揮するためには，発達を考慮した適切な指導を行なわない限り困難だと考えられる。なぜなら，ある程度学習歴のある大学生においても批判的思考を必要に応じて用いることは，全般的な批判的思考能力が存在しても普段から発揮されることが少ないことがこれまでの研究が報告されている（道田，2001；小野田，2015）。

そこで，小学生の批判的思考を生起させる要因として重視されているのが，発表者のアーギュメントスキーマである。たとえば，山本（2011）は学習スキルを集中的に教えながら，レポート報告などを書く活動と情報収集や情報交換を目的とした対話活動を取り入れた授業を行ない，考えたこととその根拠を学級全体で丁寧に検討する経験をさせている。そのような経験は客観的な事実と主観による考えを整理して理解し，さまざまな議論の中で深く考えるよさがあると考える。

しかし，先行研究では教科書教材で批判的思考要素を直接教授した実践は多くない。批判的思考の育成を目的とした研究から樋口（2012）は，教師がどのように働きかけ，学習者がどのように思考したかといった批判的思考の過程を明らかにした研究がほとんど行なわれていないことを指摘している。また，樋口は批判的思考のどの要素が育成されるかについての構造化や興味深い日常のテーマにおける単元開発，また教師の働きかけにより学習者がどのような思考過程をたどったかなどの思考過程やその効果を高める方法について検討の必要性についても指摘しており，批判的思考を育む上での課題といえる。

山本や樋口の研究は，批判的思考を培う授業に対して目標提示の効果が見られた一方で，授業の逐語記録や児童の記述等の細やかな分析，試行段階後の評価を通して修正を加えていくことでその方略について明確にすることができることを指摘している。そこで，批判的思考を培う授業を構築するにあたり，学習者が自己中心的な思考や先入観，バイアスなどの陥りやすい問題を明らかにした上で，

それに対応した方略を提示し，その効果を検証する。また，授業開発と並行して批判的思考の態度とスキルの相関についても，認知的共感性の高まる小学校高学年において検討の必要性が挙げられる。

３．授業実践

(1) 公立Ａ小学校（課題発見実習Ⅱ　前半）

３学年３クラスに対して，４コマ漫画を活用したトピック的な国語の授業を行なった。この授業では，起承転結の構成を考えてペアからグループへ学習形態を変え，試行錯誤を繰り返しながらコマごとの状況や背景を考えて４コマ漫画の復元に挑む学習者の様子が見られた。一方で，自分の考えた構成との違いやその根拠，「オチ」の説明など漫画を並べ変える活動の中で背景の情報を多角的に捉えて，並べ変えた論理性を検討するような問いの持たせ方や対話を生かして思考を深めさせることへの課題が明らかになった。この実践から，領域特殊的で利用されにくいという特質がある批判的思考能力を培い，生かせる力を学習者につけていくにはトピック的な１単位時間ではなく，１単元を通して培う指導内容を重ねていく中で具体的な計画をもとに教科書教材を生かした授業をデザインし，授業実践を行なう必要があることを強く認識した。

(2) 公立Ｂ小学校（課題発見実習Ⅱ　後半）

授業実践における目的は，批判的思考能力を培うプロセスのつまずきの克服において学習者が自己中心的な思考や先入観等に陥りやすい状況を明らかにして，方略を検討することである。学習のポイントであるテーマ設定や伝えたいことの中心をしぼる活動において，付箋紙やホワイトボードを活用して話し合い，互いの考えをつなげたり修正したりしながら決定していく過程に重点をおいた。これまでの既存知識と批判的思考スキルや態度等を駆使させながら学習者が問題を解決する中で，この実践では批判的思考スキルや学習内容とそのつまずきを克服するための方略を整理し，批判的思考能力の効果を高める方法について検討した。

(3) 方法

① 対象

公立Ｂ小学校において，５学年１学級 28 名（男子 14 名，女子 14 名）を対象とし，期間は 2018 年２月５日から２月 19 日とする。

(4) 批判的思考の構成要素とプロセス（図１）と関連させた単元構想案

	時	ね ら い	ス キ ル
一次	1	○ 単元名やリード文を読み，資料を有効に活用した発表の仕方について話し合い，学習の見通しをもつ。	**【問題発見スキル】** 自ら学習を振り返り観点に沿って問題を発見する力
二次	2	○ 資料の示し方を工夫した効果的な発表の仕方について知る。	**【明確化スキル】** 問題を明確にし，効果的な解決方法を認識する力
	3・4・5	○ 発表するテーマを決め，伝えたいことの中心を考える。	**【推論の土台検討スキル】** 培ってきた力を生かしながら吟味していく力
三次	6・7	○ 資料や内容を選び抜き，工夫して発表の準備をする。 ○ 発表の構成，工夫を考えることができる。	**【推論スキル】** テーマや資料等の整合性やその価値を再吟味して根拠を基に論理的に構成する力
	8・9	○ 資料を提示しながら説明や報告をしたり，それらを聞いて助言や提案をしたりする。 ○ 資料を使った効果的な発表について振り返り，その有効性を理解する。	**【意思決定・メタ認知スキル】** 構成を考えた，よりよい伝え方を熟考して意思決定し，メタ認知する力

(5) プレゼンテーション課題

テーマやプレゼンテーションの内容は，書き手の知識や興味，態度が影響すると考えられることから，学習者が興味深い日常的テーマを選定し，協同で学び合えるような教材，「資料をくふうして効果的に発表しよう」（教育出版，５年下）を選択した。たとえば，「アニメのおもしろさのひみつ」や「流行語誕生のなぞ」，「きょうりゅう絶滅のなぞ」などグループで選択したテーマに対して資料を生かして構成を考え，わかりやすく伝えるプレゼンテーションを行なう課題である。

学習者が，広い視点で出し合った多くの興味や関心に関するテーマを決定する場面において，課題設定理由に情報処理の分量的な能力や活動のスケジュール，整理・集約能力などを考慮することが，

適切なテーマ設定として妥当かどうかの批判的態度や省察的懐疑スキルの要素につながると判断した。また，考えたことや伝えたい話題について課題や内容にあった適切な資料を使い，より効果的に伝える構成や話し方を考えるときに，伝え方に問題はないか，他にどんな可能性があるか，もっとよい情報はないか，この答えが本当に正しいのかなどの批判的思考要素を含むことも設定理由である。さらに，自他のプレゼンテーションの過程や方法，工夫やその有効性，効果など評価について，聴いた人が納得するように自分の意見を書き，説得力があるか，必要な資料を集めて選び，プレゼンテーションの内容（明瞭性や客観性）や工夫について考えた後，内容の方法を見直すことなどを協同の学びを通して創造的で柔軟な思考や論理的で合理的な思考などの本質を見抜ける批判的思考の活用が求められる。そのことは，建設的な修正や発展への具体的・提案的な評価の視点をもたせることができると考える。

4．まとめと今後の展望

本年度（研究１年目）は，批判的思考に関わる先行研究から研究の動向と課題を把握した上で，連携協力校での課題発見実習Ⅱで授業実践することにより，批判的思考スキルを教科内容とともに指導する授業デザイン等，自らの研究テーマや内容を精査することができた。実践の結果から，学習者が授業を通して学んだことが学習場面や生活場面で生かされる転移を促す学習活動も視野に入れた授業の見直しが必要であり，学習者自らの問題を批判的に思考しながら教科の内容を習得する方略や単元開発等の課題が明らかになった。

今後は，特に国語教材に批判的思考スキルを組み入れた単元開発とその実践を試みる中で，教師の働きかけや学習者の批判的思考の過程を明らかにする。批判的思考スキルに焦点をあてた授業デザインを構築していきながら，事前事後テストや質問紙，授業中の発言やワークシート，ポートフォリオ等を通した学習者の批判的思考の分析を中心に批判的態度尺度と批判的思考スキル等，批判的思考能力の相関についても検証していく必要がある。これらにより，それぞれの授業場面における批判的思考を明確にすることができ，発達を考慮した学習者への支援が可能になる。

［文献］

Ennis, R. H. (1987). A taxonomy of critical thinking dispositions and abilities. In J. B. Baron & R. J. Sternberg (Eds.), *Series of books in psychology. Teaching thinking skills: Theory and practice* (pp. 9-26). New York, NY, US: W H Freeman/Times Books/ Henry Holt & Co.

樋口直宏（2012），「日本における批判的思考研究の動向と課題　－教育学を中心に－」「教育方法学研究」第 17 号，pp. 199-215

平山るみ・楠見孝（2004），『批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響」『教育心理学研究』第 52 巻第 2 号，pp. 186-198

楠見孝・道田泰司(2015)，『批判的思考：21 世紀を生きぬくリテラシーの基盤』新曜社，p. 19

道田泰司（2001），「日常的題材に対する大学生の批判的思考」『教育心理学研究』第49巻第1号，pp. 41-49

道田泰司（2011），『最強のクリティカルシンキング・マップ』日本経済新聞社，p. 19，p. 117

文部科学省(2012)，「特集１　教育再生の実行に向けて」『平成 24 年度　文部科学白書』
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201301/detail/1339289.htm (2018. 3. 23 現在)

小野田良介（2015），「児童の意見文産出によるマイサイドバイアスの低減」『教育心理学研究』第 63 巻第 2 号，pp. 121-137

山本俊輔（2011），「クリティカル・シンキングできる子を育てる-授業づくりと学級づくりを通して」『児童心理』第 65 巻第 5 号，pp. 450-455